



発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス

takaranoizumi.com

ご朱印 ちよつと深い話

令和5年5月、東京のど真ん中、丸の内において「日本百観音 in 東京」が開催され、私もそのお手伝いに伺っていました。このイベントは西国三十三+坂東三十三+秩父三十四、合わせて百観音霊場のご本尊（の写し）と境内の土を一か所に集めることで、全ての観音霊場をいっぺんに巡ることができるという企画で、目玉の一つとして徳道上人起請文（神仏に誓いを立てた証文）が展示されていました（写真①）。

西国（関西）の観音霊場は日本最古の巡礼地であり、奈良の長谷寺を開山した徳道上人が、夢の中で閻魔大王から「観音菩薩の徳を広めるように」とお告げを受けたことに始まります。西暦718年のことでした。その際に閻魔大王より授けられた宝印と起請文がご朱印の起源とされています。

時代は下って鎌倉時代、源氏が東西を行き来するなかで観音霊場信仰は関東に伝わり坂東の霊場が起り、また平和な江戸時代には庶民の少しゆったりとした旅行のコースとして秩父の札所が開設されたようです。ちなみに三十三という数字は、観音さまが三十三の姿に変化して私たちを救うと説かれた「観音経」の教えに基づいています。

さて、ここ寶泉寺は、お大師さまを祀る奥多摩新四国八十八ヶ所霊場の第五十番札所です。そのご朱印を求めに来る方がいらっしゃるのはもちろん、この数年は札所とは関係なくご朱印を、と訪ねられる方が



写真① 徳道上人起請文

目立つようになりました。

そこで、というわけでもないのですが、最近私の友人が開発した「話朱印しゅいん」なるものを導入しました。「話朱印」とは、スマホのカメラ機能を使い、朱印帳に押された特殊なハンコにスマホをかざすと、その画面上に特定の僧侶や神職の画像が表示され、同時に音声流れるという仕組みの最新式(?)のご朱印です(写真②)。もちろんここ寶泉寺の「話朱印」では私が映りますので、興味のおありの方はお気軽におたずね下さい。

話を少し戻します。ご朱印の起源は徳道上人が授けられた閻魔大王からの宝印でした。この宝印は言い換えるならば閻魔大王と徳道上人の約束の証です。つまり、ご朱印とはただのスタンプラリーのスタンプではなく、ご縁を結んだ神仏と皆さまの約束のしるしということです。

これまでのご朱印を振り返るときには、また新たにご朱印をいただく際には、そんな神仏とのご縁を意識してみるのも良いかもしれませんね。



写真② 「話朱印」画面

檀信徒のおつとめ を読む ⑧



8. 開經偈(かいきょうのげ) p8

書き下すと「無上むじょう甚深微妙じんじんみみょうの法は、百千万劫ひゃくせんまんごうにも遭あい遇おうこと難かたし、我われ、今見聞けんもんし受持じゆすることを得たり、願ねがわくは如来の真実義を解したてまつらん」となります。

お経の直前に唱える偈文(詩)で、「深い仏の教えは長い時間をかけても遭遇することは難しい、しかし、今私はそれに出会うことができた。願わくは仏の真実の教えを会得できますように」という意味です。

「お経」は本来仏の言葉そのものを指し、これまで紹介してきた「十善戒」などは厳密にはお経と区別されます。ここまでは準備体操のようなもの。「準備完了、これからお経を唱えますよ。」と宣言するのが開經偈です。

體 兼 體

深 嫩

願 解 如 願

真 義 遭

老僧のつづき ①⑦

四国遍路 その1

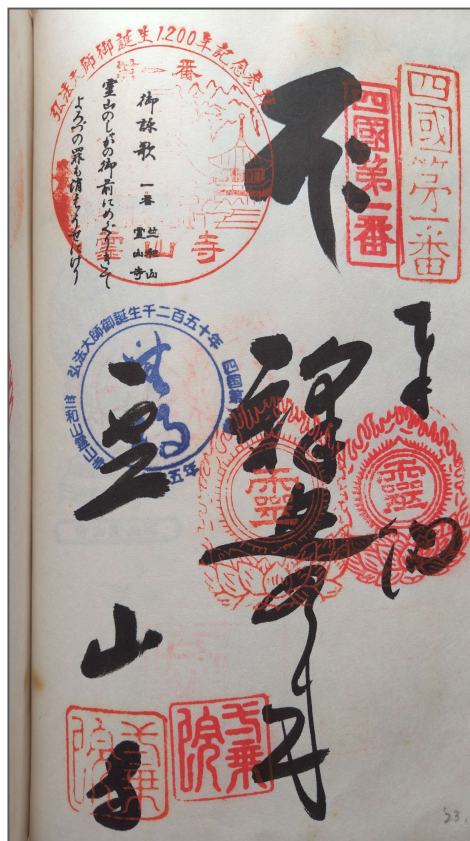
今年には弘法大師ご生誕1250年の年、歴史的に50年ごとにご本山ではもちろん各地で記念の法要や行事などが行われています。

50年前の、その記念の年小僧(しょうそう)は24才、歩いての四国遍路に臨んだのでした。5月1日、東京駅夜行普通列車で出発、最後は6月21日高野山をお参りして完了、50日を超す長旅でした。僧形でザックにテントと自炊用具、着替えなどで約1400キロを歩き通しました。そのきっかけは師僧の遍路の話が記憶に残っていたのと先輩が衣を着てお遍路をした経験を聞いたことで、いつかはと心に留めていたのです。

50年目の今年、再度の巡拝を何年も前から目論んでいました。年始めから座骨神経痛がひどく、なかなか出られずにはいきましたが今しかないと言い聞かせて出たのが秋のお彼岸直後、不安をかかえながらの出発でした。今回は平服にジョギング

シューズ、金剛杖はウォーキングポールに「南無大師遍照金剛」「同行二人」と書き入れた札をくくりつけました。移動は自家用車、宿泊は基本を車中泊で1週間、往復をフェリーでと50年前からすればお気楽モードです。50年前、四国に渡る船が嵐のため欠航、ほぼ一日待って夜の四国上陸だったことを思い出していました。フェリーは東京湾有明を定時に出港し徳島は翌日の午後早く定刻に接岸、88カ所巡拝の始まり、一番霊山寺に向かいます。大きな道路や高速道路は50年間の変貌だなど思いながら車は進みます。つづく。

霊山寺納経「釋迦如来」
50年前の納経帳に印章だけ重ねていただきました。



第38回 元旦お経の会

日時：令和6年1月1日 午前0時と午前9時の2回
会場：寶泉寺 本堂（直接本堂正面からお入りください）



あしなが育英会寄付報告

今年も皆さまからお預かりしているお布施より「191,700 円」をあしなが育英会に寄付いたしました。謹んでご報告申し上げます。

年 回 表 令和五年

一 周 忌	令 和 5 年
三 回 忌	令 和 4 年
七 回 忌	平 成 30 年
十三回 忌	平 成 24 年
十七回 忌	平 成 20 年
二十三回 忌	平 成 14 年
二十七回 忌	平 成 10 年
三十三回 忌	平 成 4 年



今年もつい最近まで雑木林に可憐なりンドウが咲いていました。漢字で「竜胆」とかき、姿からは似つかわしくない字ですが根は漢方薬で、その苦さと薬効から龍の肝と言われたそうです。

編 集 後 記

- ・辰年生まれの私は来年4度目の年男を迎える。龍は仏教の經典にも沢山登場する神聖な存在だが（ちなみに観音様の三十三変化身の一つが龍）。2024年はそのご利益にあずかってより充実した年にしたい。
- ・スマホで本を聴くサービスaudibleにはまっている。掃除しながら読書(?)できる幸せ。
- ・本年もたくさんの方々にお世話になりました。心から御礼申し上げます。
- ・神経痛は気分を落ち込ませていた。病気をかかえた人の心理の一端を知った気がする。秋頃から痛みが和らぎ気分も上向きだ。
- ・お遍路、書き始めたら止まらない、お伝えしたいことが一杯、まとまらない文章だが何回かに分けて書くことにする。まさに老僧のつぶやきとしてお付き合ってください。
- ・寶泉寺ご本尊薬師如来のご加護あらんことを切にお祈り申し上げます。

Dec. 19. 2023 (琴)